

非弁膜症性心房細動患者の急性脳梗塞/一過性脳虚血発作 (TIA)におけるリバーロキサバンの投与開始時期に関する 観察研究

脳梗塞やその前触れ発作である一過性脳虚血発作(TIA)の3割近くは、心臓に出来た血の塊が脳動脈を突然詰めて起こる、心原性脳塞栓症といわれるタイプに当たります。あなたが持つ心房細動という不整脈は、この心原性脳塞栓症の原因となり易いことが知られています。心房細動を持ち、脳梗塞・一過性脳虚血発作を起こした患者さんの再発を防ぐために、内服薬の抗凝固薬が良く用いられます。抗凝固薬は脳梗塞予防に優れる反面、出血合併症を起こし易い欠点もあります。

脳梗塞を起こした後にも、再発を予防するため、抗凝固薬を用いますが、その開始時期によっては、脳梗塞の再発を防げなかったり、出血合併症が起こりやすくなったりします。また、脳梗塞の大きさによっても、抗凝固薬の好ましい服用時期は異なると考えられています。

しかし、今のところ、脳梗塞の大きさにあわせた抗凝固薬の好ましい服用開始時期については研究報告がなく不明です。最近、新しい内服抗凝固薬が承認され使用できるようになりました。リバーロキサバン(商品名イグザレルト錠)も、その1つで、1日1回1錠の服用で脳梗塞の発症を抑え、従来の薬剤よりも頭蓋内出血などの重大な出血合併症が少ないことが確認されていることから、治療の選択肢の1つとして多くの患者さんが服用している状況です。

今回の研究では、脳梗塞の再発を効果的かつ安全に抑える上で、抗凝固薬の好ましい服用開始時期を明らかにすることを目的としています。

本試験は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会(臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会)においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。